

消費者動向調査 No.113

テーマ「冬のボーナス使いみち調査」

◆ 調査時期 平成 25 年 10 月

◆ 調査対象 福岡県内のサラリーマン家庭の主婦 500 人
(うち回答者 481 人、回答率 96.2%)

◆ 回答者区分

A.年代

	%
20代	4.2
30代	20.4
40代	37.6
50代	24.7
60代	13.1

B.あなたのご家庭で

ボーナスがあるのは

	%
夫だけ	52.0
妻だけ	13.0
両方	35.0

※当調査は情報提供を目的として作成されたものであり、その正確性・確実性を保証するものではありません。

西日本シティ銀行
N C B リサーチ & コンサルティング

[調査結果本文]

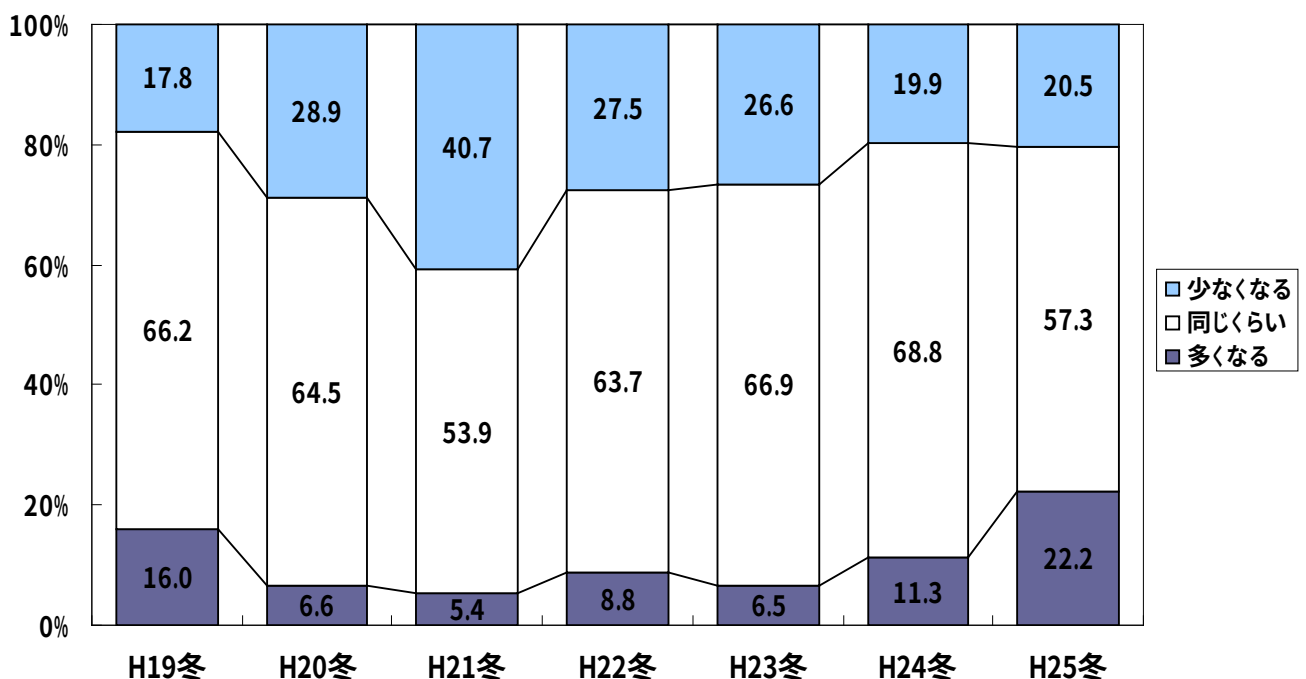
内閣府は11月の月例経済報告で、「景気は、緩やかに回復しつつある。」と発表しています。先行きについては、「輸出が持ち直しに向かい、各種政策の効果が発現するなかで、家計所得や投資の増加傾向が続き、景気回復の動きが確かなものとなることが期待される。また、消費税率引き上げに伴う駆け込み需要も見込まれる。ただし、海外景気の下振れが、引き続きわが国の景気を下押しするリスクとなっている。」としています。

このような中、消費者はこの冬のボーナス受給額をどのように予想し、どのように消費しようと考えているのでしょうか。また、冬のボーナスの使いみちについて、これまでと違った傾向は表れつつあるのでしょうか。ボーナス受給を間近にひかえ、福岡県在住の主婦を対象に冬のボーナスについての消費動向をたずねました。

◆ 今年の冬のボーナス、前年冬と比較して「多くなる」は10.9ポイント増加し、22.2%で過去最高。

冬のボーナスが前年冬より「多くなる」と予測する割合は10.9ポイント増加し22.2%で、過去最高となった。「少なくなる」は0.6ポイント増加し20.5%、前年冬と「同じくらい」は11.5ポイント減少し57.3%であった。

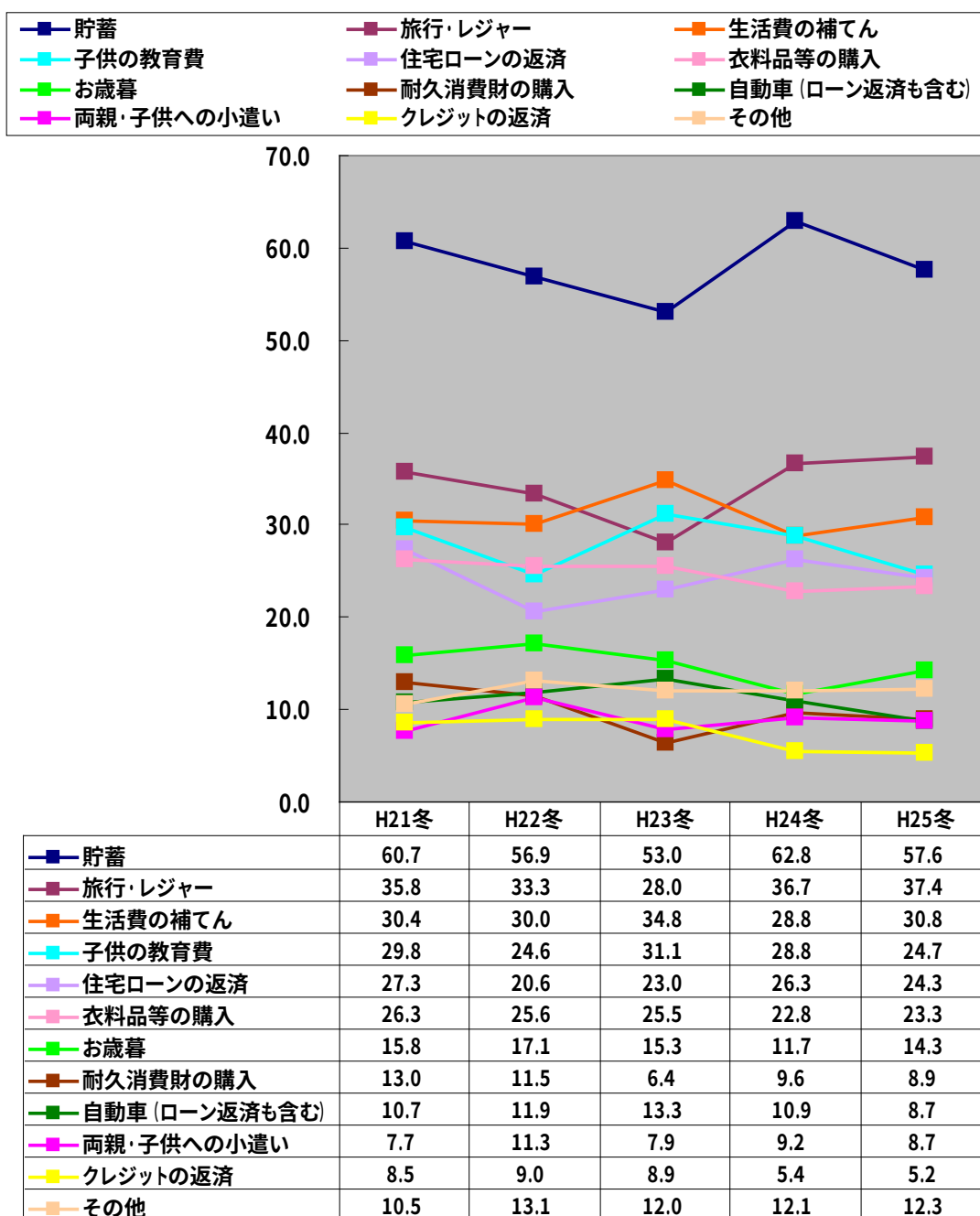
[グラフ1：冬のボーナスは昨年に比べどうなると予想していますか]（単位：%）



◆冬のボーナスの使いみち予定、1 位は「貯蓄」で 57.6%。2 位は「旅行・レジャー」で 37.4%。

冬のボーナスの使いみち予定 1 位は「貯蓄」で 57.6%。これは前年冬の 62.8%より 5.2 ポイント減少した。2 位は「旅行・レジャー」で 0.7 ポイント増加して 37.4%。3 位は「生活費の補てん」で 30.8%となった。

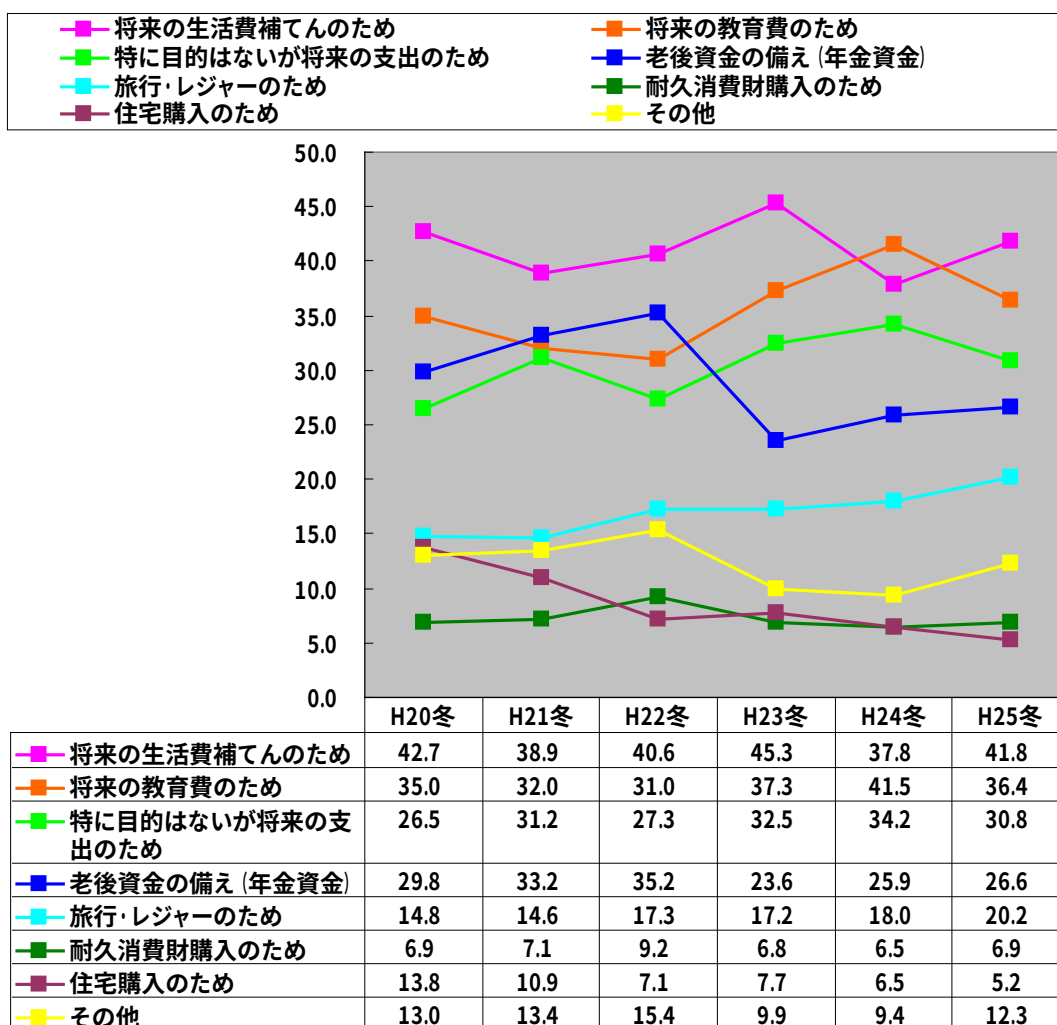
[グラフ 2：冬のボーナスは何に使う予定ですか（3つまで）] （単位：%）



◆ボーナスを貯蓄する目的、1位は「将来の生活費補てんのため」で41.8%。2位は「将来の教育費のため」で36.4%。

冬のボーナスを貯蓄する目的の1位は、「将来の生活費補てんのため」が前年冬に比べ4.0ポイント増加し、41.8%でトップ。2位は「将来の教育費のため」で5.1ポイント減少し36.4%と、引き続き将来への備えが上位を占めた。

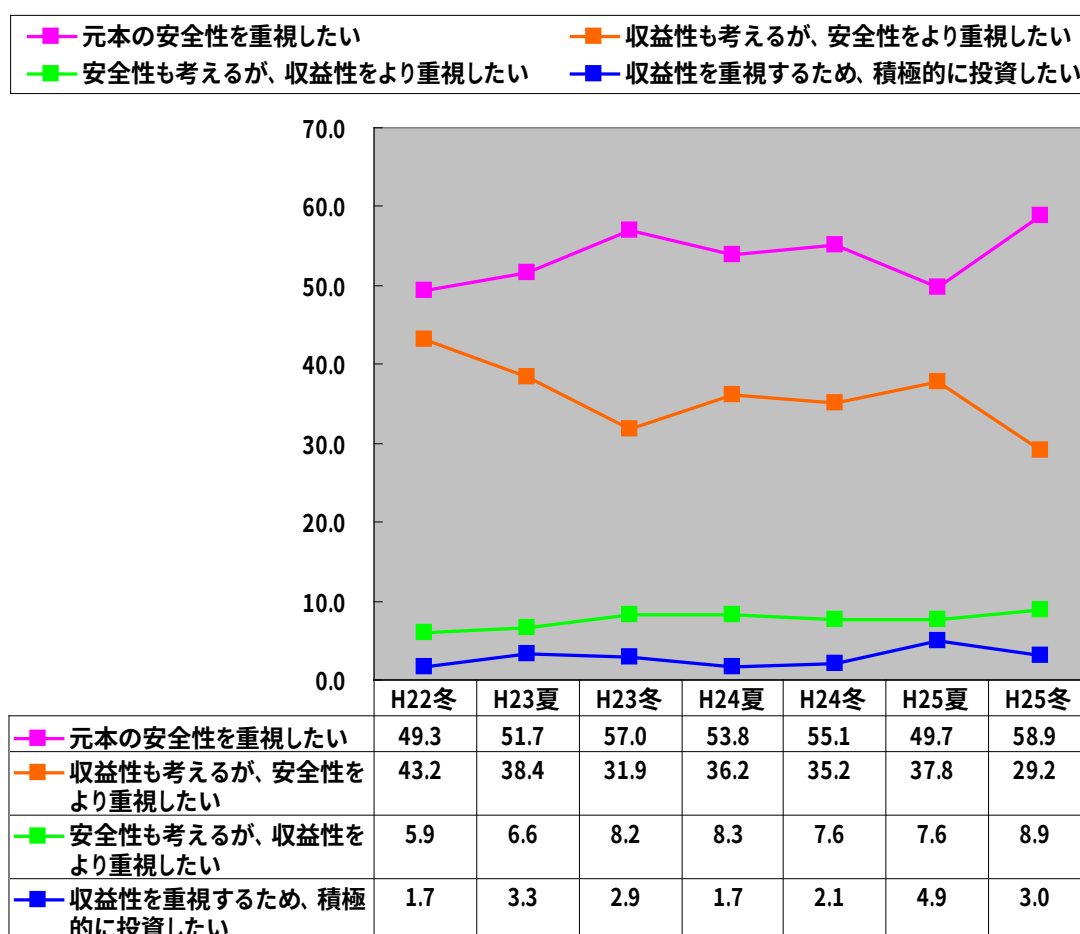
[グラフ3：将来の何のために冬のボーナスを貯蓄しますか（2つまで）]（単位：%）



◆冬のボーナスを貯蓄する場合の考えは、「元本の安全性を重視したい」が58.9%で1位。

「元本の安全性を重視したい」が今年の夏から9.2ポイント増加の58.9%で7期連続1位。
「収益性も考えるが安全性をより重視したい」が今年の夏から8.6ポイント減少して29.2%。
景気回復の兆しが見られるものの、安全性を重視する割合が引き続き高水準である。

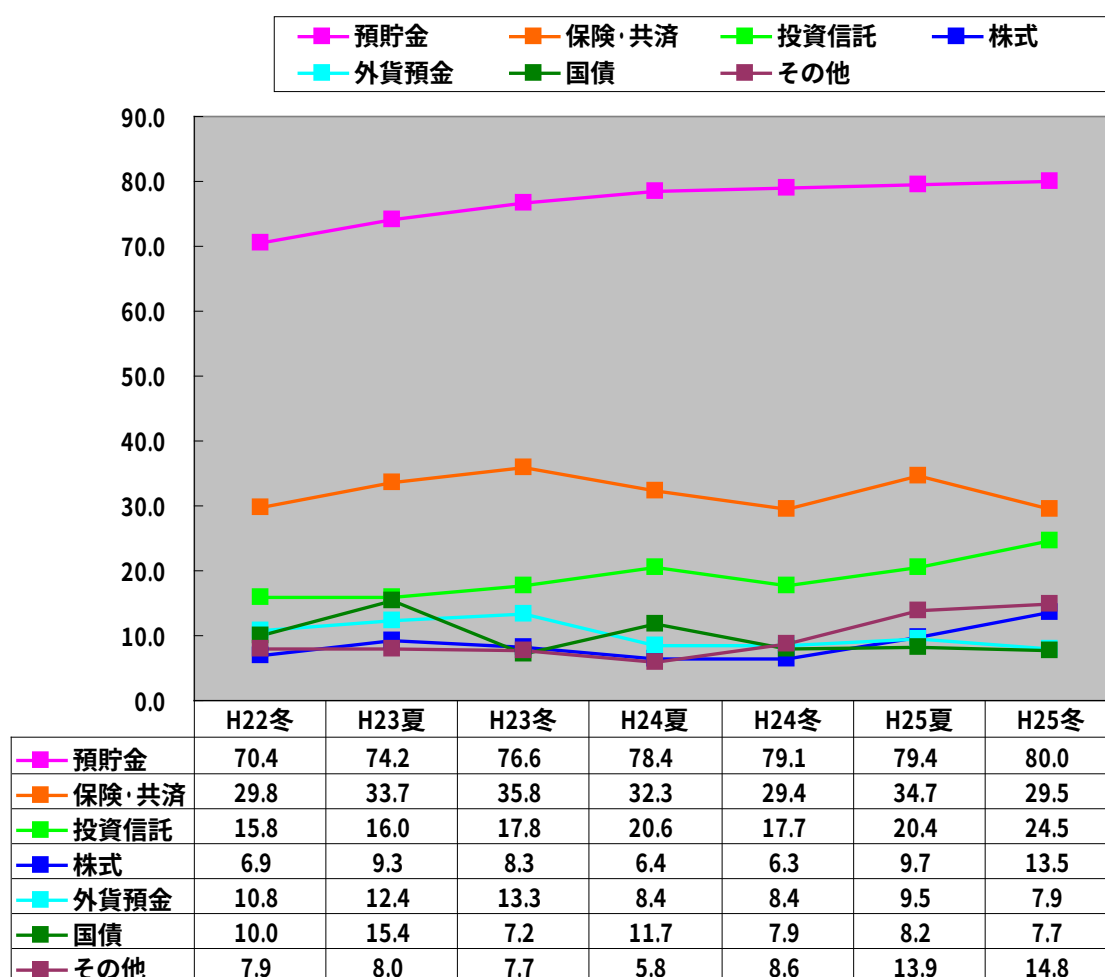
[グラフ4：冬のボーナスを貯蓄する場合、あなたの考えに近いのは]（単位：%）



◆関心がある金融商品、1位は「預貯金」で今年の夏より 0.6 ポイント増加し過去最高の 80.0%。

現在関心がある金融商品は「預貯金」が 80.0%で 1 位。2 位は「保険・共済」で 29.5%。景気回復傾向にあるものの、引き続き安定志向が強く、「預貯金」が過去最高を更新した。株価の回復や円安傾向を受けて、「投資信託」や「株式」といったリスク商品に対する関心も増加した。

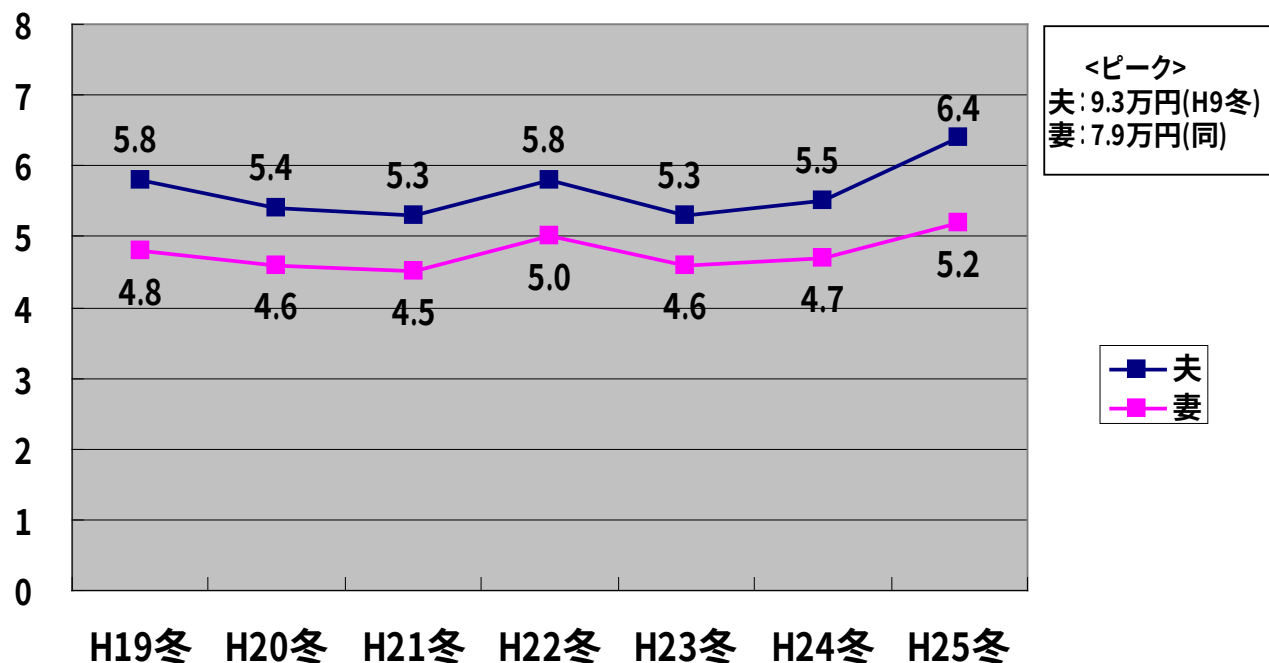
[グラフ 5：どのような金融商品に関心がありますか（いくつでも）] （単位：%）



◆冬のボーナス、自由に使える金額は、前年冬に比べて夫は 9 千円アップ。妻は 5 千円アップ。

冬のボーナス、夫が自由に使える金額は平均 6.4 万円（前年冬比 9 千円増）。妻が自由に使える金額は平均 5.2 万円（前年冬比 5 千円増）。冬のボーナスが“多くなる”との予想が増加したのを反映し、自由に使える金額は前年の冬から夫・妻ともに増加した。

[グラフ 6：自由に使える金額はどれくらいですか] （単位：万円）



この調査に関するお問い合わせ先は			
西日本シティ銀行	広報文化部	長谷川、梶原	TEL 092-461-1869
NCB リサーチ&コンサルティング	調査部	原	TEL 092-476-3051

テーマ 「主婦の消費税増税に対する消費動向」

- ◆ 調査時期 平成 25 年 10 月
- ◆ 調査対象 福岡県内のサラリーマン家庭の主婦 500 人
(うち回答者 481 人、回答率 96.2%)
- ◆ 回答者区分

	%
20 代	4.2
30 代	20.4
40 代	37.6
50 代	24.7
60 代	13.1

安倍首相は平成 25 年 10 月 1 日、消費税率を平成 26 年 4 月 1 日より法律で定められた通り、5%から 8%に引き上げると発表しました。そこで、消費税増税実施前の消費動向について、アンケート調査を行いました。

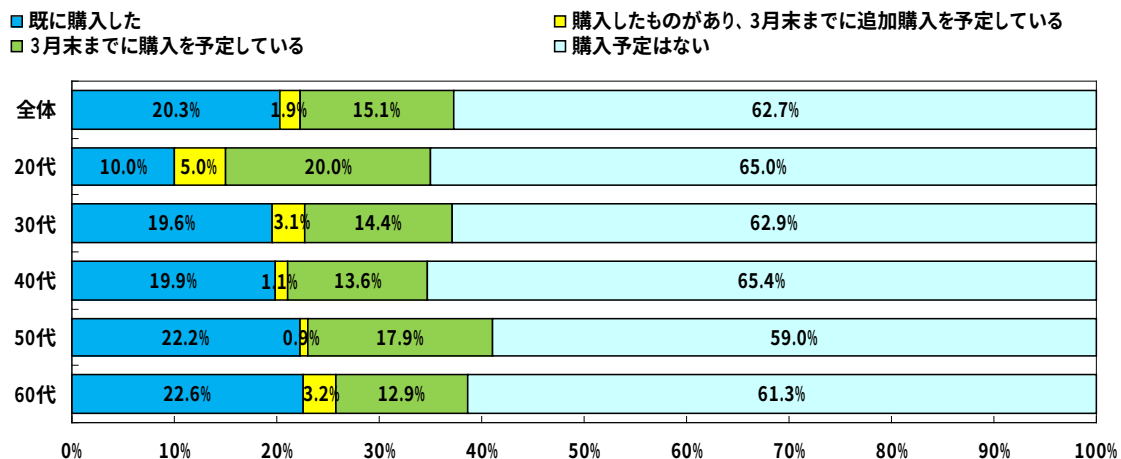
◆増税前にすでに購入されたものはありますか：

『既に入購入した』は 20.3%、『3 月末までに購入あるいは追加購入を予定している』は 17.0%、『購入予定はない』は 62.7%。

全体では『購入予定はない』が 62.7%で、『既に入購入した』～『3 月末までに購入を予定している』の合計 37.3%を大きく上回った。

年代別では、50 代が『既に入購入した』～『3 月末までに購入を予定している』の合計が 41.0%で、唯一 40%を超えた。

消費税増税を前提に、既に入購入されたものはありますか

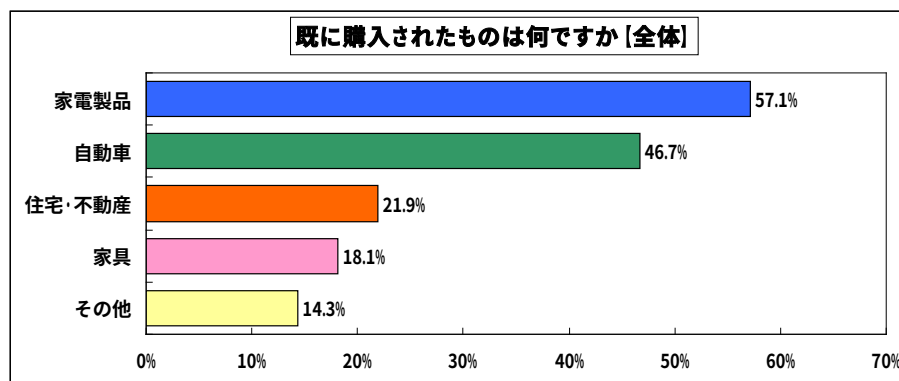


◆消費税増税を前提として、すでに購入された方、購入されたものは何ですか：

すでに購入されたものがある人のうち、57.1%が『家電製品』を、46.7%が『自動車』を購入。

すでに購入されたものがある人のうち、57.1%の人が『家電製品』を、46.7%が『自動車』を、21.9%が『住宅・不動産』を、18.1%が『家具』を購入された。

(いくつでも可)

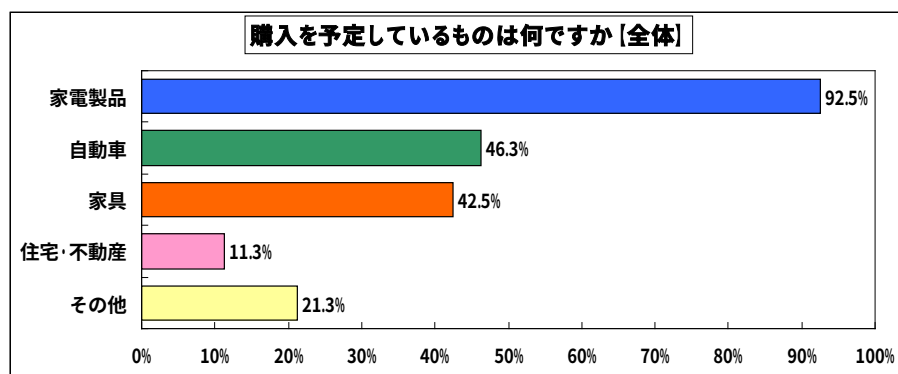


◆消費税増税までに購入を予定しているものは何ですか：

購入を予定している人のうち、92.5%が『家電製品』を、46.3%が『自動車』を購入予定。

購入を予定している人のうち、92.5%が『家電製品』を、46.3%が『自動車』を、42.5%が『家具』を、11.3%が『住宅・不動産』の購入を予定している。

(いくつでも可)



テーマ 「NISAについて」

- ◆ 調査時期 平成 25 年 10 月
- ◆ 調査対象 福岡県内のサラリーマン家庭の主婦 500 人
(うち回答者 481 人、回答率 96.2%)
- ◆ 回答者区分

	%
20 代	4.2
30 代	20.4
40 代	37.6
50 代	24.7
60 代	13.1

平成 26 年 1 月よりスタートする、少額投資非課税制度『NISA』について、アンケート調査を行いました。

- ◆『NISA』を知っていますか：
『知っている』は 58.6%、『知らない』は 41.4%。

『知っている』人は 58.6%、『知らない』人は 41.4%であった。
年代別では、40 代の認知度が最も高く、20 代の認知度が最も低かった。

